

珠洲だより

2025年9月10日 第2号

珠洲市は残暑厳しい日が続いています。



令和6年奥能登豪雨から1年が経とうとしています。

度重なる被害で、多くの支援がまだ必要な状況です。

そんな状況の中でも、行政の支援金や家屋の自費解体の申請締め切りが迫っており被災された住民の方々はいまだ落ち着いて生活を送れない状況があります。申請主義の日本ではこの申請期限などについて曲げることができずつらい現実を受け止めながら前に進むしかありません。

私たち、医療ソーシャルワーカーは地域の中で何ができるのか日々考えて行動を起こしていかなければならないと考えています。

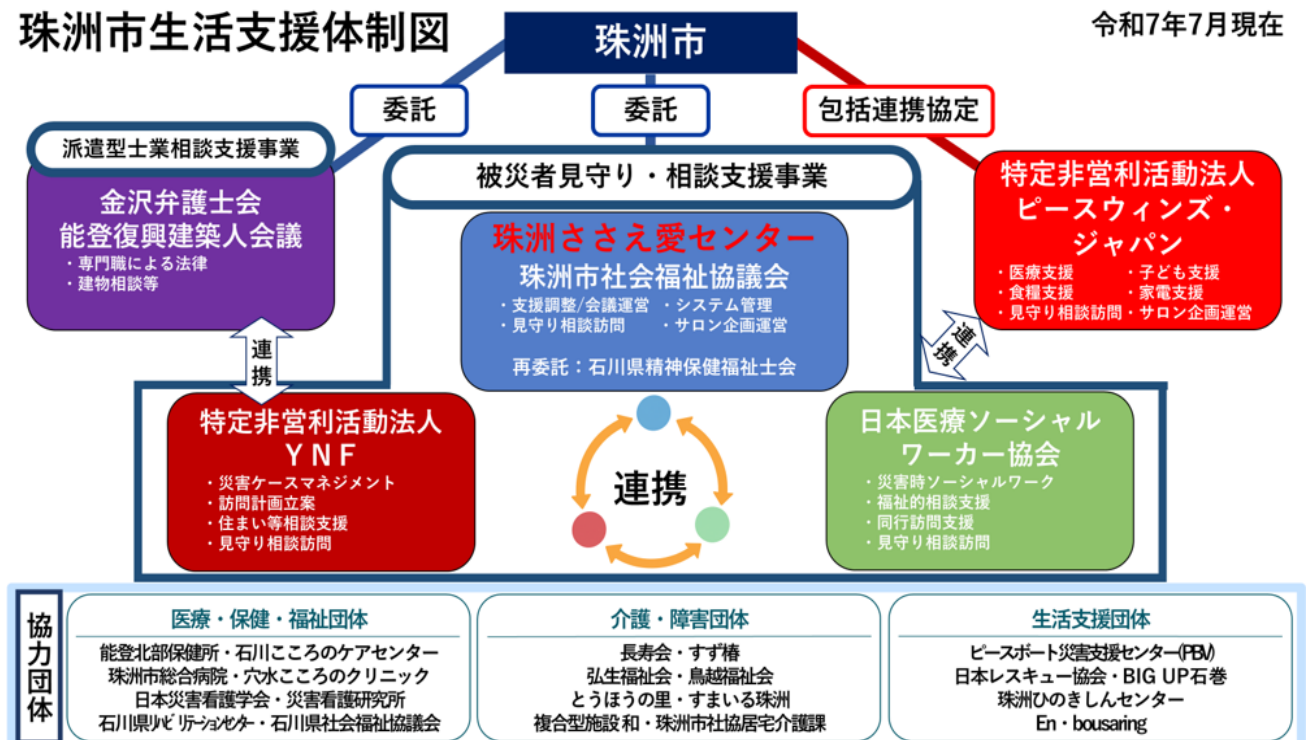
さて、9/1-5まで、応援スタッフが2名入りました。「金子（栃木/群馬）、平野（大阪）」

前はサロン活動を紹介しましたが、今回は珠洲市の支援体制についてお伝えしたいと思います。

私たち日本医療ソーシャルワーカー協会は、石川県福祉協議会が行っている「石川県地域支え合いセンター」事業の珠洲市ささえ愛センターに事務所を間借りして日々被災地支援を行っています。支援内容は、ケース介入だけでなく地域の会議や仮設訪問に参加もしています。毎月1・3週の水曜日に珠洲市内を地域ごとに分けて各エリアの担当が現在の共有・課題検討を行うエリア会議、珠洲市と各団体からの課題抽出や共有を行う生活支援ネットワーク会議が行われます。

珠洲市生活支援体制図

令和7年7月現在



派遣者ちょこっと瓦版

珠洲市に派遣された方に感想や課題などのご意見をいただきます。

日本医療ソーシャルワーカー協会の金子です。

今回 9/1-5 に被災地支援を行いました。2024 年 2 月 1.5 次避難所でも支援を行ったので今回で 2 回目の派遣となります。

珠洲市の現状を見て復興には長い時間が必要だと感じるとともに、まだまだ多くの支援が必要な状況と感じました。

災害支援についてよく何をすればいいかわからない・MSW が被災地に行ってできることがあるのかなどお話をいただくことがあります。私の考えになってしまいますが、普段のソーシャルワーク実践ができていれば特に不安に思うことはないと思います。

私たちソーシャルワーカーはクライアントからニーズを教えてもらい、それを叶えるためのサポートをしています。被災地でもそれは同様で、仮設住宅へ訪問し今目の前にいる方は何を考え、何を望んでいるのか。それを聞き取り支援に結び付けていくことが必要となります。

派遣中は、訪問（仮設住宅・関係機関）と日報の整理などを行いました。

写真は、須須神社の手水舎です。

震災後からこのままの状況となっているとのことでした。

一日も早い能登の復興をお祈り申し上げます。

金子 雅仁（医療法人杏林会 今井病院）



日本医療ソーシャルワーカー協会の平野です。

9 月 1 日から 5 日にかけて珠洲市で活動を行った。

訪問をしていると、首を垂れる稲の姿が見受けられた。

また、住民さんと話をしていると「今年は収穫できればいいな・・・」との声が聞かれた。

昨年、珠洲市では収穫を目前に控えた矢先、奥能登豪雨が発生した。

その後に訪れた際には、「泥がついたために稲刈り機が使えない」と語りながら、鎌で稲を刈り取っていた高齢女性の姿があった。

珠洲市は外から見ると災害対応に慣れているように映るかもしれない。

「受援力が高い」と評価する向きもあるかもしれないが、私としては繰り返される被災の中で、「またか・・・」「なぜ奥能登ばかりが・・・」という思いを抱えつつも、そうした状況に順応し、支援を受け入れる体制が築かれてきた結果であると考えます。

珠洲を訪れるたびに、多くの学びを得ているのは事実である。

しかし、私たちは決して勉強のためだけに来ているのではない。

支援者として珠洲を訪れているという自覚を持たねばならないと

改めて強く感じた。

平野 裕司（桃山学院大学）

